

徳山試験地の鳥類相

二 村 一 男

はじめに

京都大学演習林徳山試験地は、瀬戸内海に面した徳山市街地の北東部にあり徳山駅から約3 km、その面積は42.78haである。

海拔高は82mから350mで、タブノキ、クロキ、クスなどの常緑広葉樹とクマノミズキ、ヤマハゼ、ヤマザクラなどの落葉広葉樹のまじったクロマツ、アカマツの天然生林が全体のほぼ65%を占め、残りはスギ、ヒノキ、マツ類の人工林となっている。

これらの森林の低木層は、ヒサカキ、シャシャンボ、イヌビワ、クサギ、マンリョウ、ゴンズイ、ヤブムラサキ、キイチゴ、ガマズミ、ネズミモチ、アケビ、ビナンカズラなどで、これらの果実のほとんどは野鳥がよく好んで食べる。

著者は1972年以来京都大学徳山試験地の鳥類相の調査をつづけてきたが、鳥類相を調べておくことは、徳山試験地で行っている景観造成に関する研究および森林施業にも大いに参考になると思われるので、現在までに徳山試験地内および隣接地で確認できた62種の野鳥と、観察による野鳥が好んで食べる木の実と、その季節変化をあわせて報告する。

なお、山口県下全体の鳥類相については、すでに三宅・白石^{2,3)}が調査し報告しているが、徳山市近辺に限って調査したものはまだない。

また、徳山市街地近郊では、臨海部の大規模な石油コンビナートによる大気汚染と宅地開発によって急激に野鳥の生息地が減少しているため、徳山試験地は鳥類の生息および繁殖地として重要な役割をはたしていることは確実である。今後の徳山試験地に残されている天然林の風致的取扱いには、当地における野鳥の生息地としての役割を十分考慮した施業が必要となろう。

本文に先だって常々ご教示いただいている京都大学演習林本部研究室講師渡辺弘之氏および同演習林徳山試験地主任助手上田晋之助氏に厚くお礼申し上げる。

調査結果および考察

1. 徳山試験地の鳥類目録

Passeres エンジャク目

Corvidae カラス科

Corvus leuallantii japonensis Bonaparte ハシブトガラス

おもに事務所付近と苗畑に周年生息する。7月から8月はじめにかけてタブノキの実をよく食べる。

Garrulus glandarius japonicus Temminck & Schlegel カケス

定着せず3月から12月にかけて3~4羽を1~2林班でよくみかける。とくに9月下旬から10月の終り頃にかけて渡りの5~6羽の群れが通過する。

Sturnidae ムクドリ科

Sturnus cineraceus Temminck ムクドリ

ii. 21, '75 2林班を5羽が通過。徳山市街地で周年生息する。冬期はとくに100羽くらいの大群と

なってクスノキの実をよく食べる。

Ploceidae キンバラ科

Passer montanus saturatus Stejneger スズメ

周年生息するが冬期間は事務所付近で2~3羽みかけるのみだが6~9月にかけては10~20羽くらいの群れになっておもに事務所、苗畑を中心として行動している。メヒシバの実をよく食べる。

Fringillidae アトリ科

Eophona personata personata (Temminck & Schlegel) イカル

定着せず、4月中旬から時々さえずりをきく、個体数は少ない、秋から冬にかけて10羽くらいの群れで通過することがある。

Chloris sinica minor (T. & S.) コカワラヒワ

3月下旬より1~2羽で行動し6月頃になるとその数はしだいに6~7羽の群れになりアザミの実をよく食べる。冬期はみない。

Uragus sibiricus sanguinolentus (T. & S.) ベニマシコ

iii. 7, '73 3林班でミヤマホオジロの群れに♂1羽を観察したのみである。

Pyrrhula pyrrhula griseiventris Lafresnaye ウソ

iii. 7, '73 1林班ヒノキ林でイヌビワの実を食べていた。i, 8, '74 2林班尾根で♀3羽, iii, 6, '74 1林班ヒノキ林で5羽

Fringilla montifringilla Linnaeus アトリ

iii. 22, '73 3林班3羽, ii. 21, '75 2林班の林道で♂2羽, iv. 14, '75 1羽

Emberiza elegans elegans Temminck ミヤマホオジロ

11月上旬に渡来し、3月下旬まで観察できる。2~10羽の群れで行動することが多いが、ときには20羽くらいの群れもみられる。

Emberiza spodocephala personata Temminck アオジ

12月下旬より4月上旬まで観察できるが、やぶの中を漂行するので確認はむづかしい。

Emberiza cioides ciopsis Bonaparte ホオジロ

周年生息し、個体数も多く、苗畑や約10年生までの造林地に多い。2月はじめからさえずり始め10月下旬ころからは10~20羽の群れで行動し、ススキの実をよく食べる。

Motacillidae セキレイ科

Motacilla grandis Sharpe セグロセキレイ

xii. 1, '72 事務所付近。徳山市街地の東川には、周年生息する。

Motacilla cinerea caspica (S.G. Gmelin) キセキレイ

定着せず、3月下旬より10月下旬ころまで2~3羽事務所付近で時々みかける。

Zosteropidae メジロ科

Zosterops palpebrosa japonica (T. & S.) メジロ

周年生息するが冬期間は、シジュウカラ、エナガ、コゲラなどと一緒にいる。広葉樹林に多い。

Paridea シジュウカラ科

Parus major minor Temminck & Schlegel シジュウカラ

3月上旬から12月下旬ころまで観察できるが数は少ない。vi. 11, '75 巣箱で繁殖したヒナは10羽であった。

Parus varius varius Temminck & Schlegel ヤマガラ

周年生息するが数は多くない。巣箱をよく利用する。エゴノキの実を食べる。

Aegithalos caudatus trivirgatus (Temminck & Schlegel) エナガ

周年生息し、2羽～10羽くらいの群れで天然林の幹や枝や漂行する。シジュウカラ、メジロと一緒にいる時がある。

Laniidae モズ科*Lanius bucephalus bucephalus* Temminck & Schlegel モズ

周年生息するが数は少ない。冬期事務所付近で、ジョウビタキとなわばり争いをする。7月初めころから高鳴きをする。

Bombycillidae レンジャク科*Bombycilla garrulus centralasiae* Poljakov キレンジャク

i. 26, '75 徳山市街地で初認し、終認は iv. 20, '75 飛来数は400～500羽と思われる。50羽くらいの群れで、サイジョウガキ、クロガネモチ、クスノキなどの実を好んで食べる。林内では、iii. 25, '75 苗畑で3羽、ピラカンサ、セイヨウイボタ、ヒノキの実を食べる。

Bombycilla japonica (Siebold) ヒレンジャク

ii. 12, '75 徳山市街地で初認し、終認は iv. 10, '75 キレンジャクと一緒に行動するが個体数はきわめて少ない。林内では、iii. 26, '75 16羽 ピラカンサ、セイヨウイボタ、ヒノキの実をよく食べる。

Pycnonotidae ヒヨドリ科*Hypsipeses amaurotis amaurotis* (Temminck) ヒヨドリ

周年生息するが、冬期間は個体数が多くなる。10月はじめから14日間くらいの間林内上空を20～70羽くらいの群れで北西方面へ移動をする。瀬戸内海沿岸から関門海峡を渡るといわれているが、その後のコースはわからないとされている。ヌルデ、ゴンズイ、ヤマガキの実を食べる。

Muscicapidae ヒタキ科*Terpsiphone atrocaudata atrocaudata* (Eyton) サンコウチョウ

vi. 18, '75 1林班ヒノキ林

Muscicapa griseisticta (Swinhoe) エゾビタキ

x. 15～21, '75 2林班でイヌザンショウの実をよく食べた。渡りの途中と思われる。

Muscicapa sibirica sibirica Gmelin サメビタキ

x. 16, '72 2林班でエゾビタキとけんかをしていた。

Muscicapa narcissina narcissina Temminck キビタキ

4月下旬に渡来し、7月上旬まで1林班ヒノキ林と、2～3林班、7林班の広葉樹林で観察できるが、個体数はきわめて少ない。

Muscicapa cyanomelana cyanomelana Temminck オオルリ

4月上旬に渡来し、7月中旬まで観察できるが、個体数はきわめて少ない。

Sylviidae ウグイス科*Phylloscopus tenellipes* Swinhoe エゾムシクイ

x. 16, '75 2林班で1羽、渡りの途中と思われる。

Phylloscopus occipitalis coronatus (Temminck & Schlegel) センダイムシクイ

4月上旬に渡来し、5月中旬まで鳴声をきく。個体数はきわめて少ない。

Cettia diphone cantans (Temminck et Schlegel) ウグイス

周年生息するが、個体数は少ない。初鳴きは2月12日、8月中旬ころまでさえずる。

Urosphena squameiceps squameiceps Swinhoe ヤブサメ

4月上旬から6月下旬にかけて鳴声をきくが、やぶの中を漂行するので観察はむづかしい。

Cisticola iuncidis bruniceps (Temminck & Schiegl) セッカ

vi. 5, '73 2林班上空を1羽通過

Regulus regulus japonensis Blakiston キクイタダキ

xi. 9, '72 1羽, i. 30, '73 10羽, xi. 9, '73 3羽, xii. 26, '73 マツ林で2羽, シジュウカラ, エナガ, コゲラと一緒にいた。

Turdidae ツグミ科

Turdus dauma toratugumi Momiyama トラツグミ

3月上旬から5月下旬にかけて昼間まれに鳴声をきくことがある。v. 21, '74 3林班アカマツ林で1羽観察

Turdus pallidus Gmelin シロハラ

11月上旬に渡来し、4月中旬頃まで観察できるが、個体数は少ない。林内の地上で採餌していることが多く、ほとんど群れにならない。

Turdus naumanni eunomus Temminck ツグミ

11月上旬に渡来し、4月中旬頃まで観察できる。個体数はシロハラよりはるかに多い。苗畑でコトネアスター、マンリョウ、ピラカンサ、マサキの実をよく食べる。また苗畑を耕耘すると地上において採餌する。

Monticola solitarius magnus (La Touche) イソヒヨドリ

v. 18, '73 試験地に隣接した高尾山の車道で♂1羽, ix. 3, '75 事務所近くのマツの木で♀1羽

Erithacus cyanurus (Pallas) ルリビタキ

iii. 7, '73 2林班林道で♀1羽, xi. 22, '73 4林班尾根♀1羽, i. 8, '74 2林班尾根♀2羽, ♂1羽

Phoenicurus aureus aureus (Pallas) ジョウビタキ

10月下旬に渡来し、3月下旬まで観察できる。苗畑でコトネアスター、ピラカンサの実をよく食べる。この地方でヒンコチとよんでいる。

Prunellidae イワヒバリ科

Prunella rubida rubida (Temminck & Schlegel) カヤクグリ

xii. 27, '73 気象観測所の芝生で1羽, なお、本種は現在までの山口県下における観察記録には報告されていない種類である。^{2,3)}

Troglodytidae ミソサザイ科

Troglodytes troglodytes fumigatus Temminck ミソサザイ

xii. 8, '72 3林班1羽, iii. 13, '73 3林班1羽, vii. 23, '74 7林班尾根1羽

Cinclidae カワガラス科

Cinclus pallasii hondoensis Momiyama カワガラス

x. 6, '75 試験地に隣接した、栄谷で1羽, おそらく周年生息していると思われる。

Hirundinidae ツバメ科

Hirundo rustica gutturalis Scopoli ツバメ

3月下旬に渡来し、10月下旬に渡去する。試験地内では6月上旬に巣立ちしたヒナが電線にとまっているのを観察できる。

Hirundo daurica japonica Temminck & Schlegel コシアカツバメ

渡来も渡去もツバメと同じ頃である。林内の電線にツバメと一緒にとまっているのを観察できる。

個体数はツバメより少ない。試験地に隣接した東一の井手の高尾団地では営巣する。

Cypseli アマツバメ目

Apodidae アマツバメ科

Apus pacificus kurodae (Domaniewski) アマツバメ

vii. 13, '72 1林班上空で5羽

Caprimulgi ヨタカ目

Caprimulgidae ヨタカ科

Caprimulgus indicus iotaka Temminck & Schlegel ヨタカ

6月上旬から7月下旬にかけて、夜間事務所付近で鳴声をきくことができる。個体数はきわめて少ない。

Halcyones ヒスイ目

Alcedinidae カワセミ科

Ceryle lugubris lugubris (Temminck) ヤマセミ

x. 24, '72 1林班の池のほとりのマツの木で♀1羽、栄谷では周年生息している。

Pici キツツキ目

Picidae キツツキ科

Picus awokera Temminck アオゲラ

4月上旬より11月下旬まで、おもに広葉樹林で観察できるが、個体数はきわめて少ない。事務所近くの電柱に穴をあけているのを観察した。

Dendrocopos kizuki nippon (Kuroda) コゲラ

周年生息し、ヒノキ林、マツ天然林で観察できるが数はあまり多くない。冬期はシジュウカラ、エナガ、メジロなどと一緒にいることがある。

Cuculi ホトトギス目

Cuculidae ホトトギス科

Cuculus canorus telephonus Heine カッコウ

5月下旬頃から7月はじめにかけて林内やその周辺で鳴声をきくが、定着せず移動中の個体と思われる。

Cuculus saturatus horsfieldi Moore ツツドリ

vi. 14, '72 7林班, v. 1, '74 1林班, v. 17, '74 2林班でそれぞれ鳴声をきく, iv. 25, '75 4林班尾根で1羽観察。

Cuculus poliocephalus poliocephalus Latham ホトトギス

5月下旬に渡来し、7月上旬まで時々鳴声をきくが個体数はきわめて少ない。おもに1林班ヒノキ林の尾根付近と、その周辺でよく鳴く。

Striges フクロウ目

Strigidae フクロウ科

Strix uralensis hondoensis (Clark) フクロウ

3月下旬から4月中旬にかけて、昼間時々鳴声をきくことがある。iv. 17, '74 苗畑の排水用ヒューム管内でヒナ2羽がかえったが大雨のためおぼれ死んでしまった。この時ヒナの餌は、ヒメネズミ4匹、スズメ1羽が観察された。

Accipitres ワシタカ目

Accipitridae ワシタカ科

Buteo buteo burmanicus Hume ノスリ

vi. 1, '73 5林班, vi. 9, '74, x. 3, '74 それぞれ1林班, ii. 1, '74 4林班。

Milvus migrans lineatus (Gray) トビ

周年生息し、よく観察できる。

Butastur indicus (Gmelin) サシバ

4月上旬に渡来し、10月上旬まで観察できる。1林班ヒノキ林、3林班マツ林でよく観察できる。林内では1～2番くらい生息し、おそらく繁殖していると思われる。iv. 30, '74 から v. 23, '74に掛けて3林班クロマツの樹上で抱卵している個体を観察する。巣立ちしたかどうかは確認できなかった。ix. 1, '75 苗畑上空で幼鳥と思われる7羽を観察する。

Columbae ハト目

Columbidae ハト科

Streptopelia orientalis orientalis (Latham) キジバト

周年生息する。6月～7月にかけて10羽くらいの群れになり苗畑に播種した緑肥用大豆を食べてしまう。冬期は1～2羽で行動することが多い。

Sphenurus sieboldii sieboldii (Temminck) アオバト

i. 30, '73 2林班上空を4羽通過, vii. 23, '74 7林班, ix. 2, '75 高尾山、それぞれ鳴声をきく。

Alectorides ツル目

Gruidae ツル科

Grus monacha Temminck ナベヅル

iii. 14, '74 苗畑上空を3羽通過。山口県熊毛郡八代盆地は本州で唯一のナベヅル渡来地として有名である。毎年10月下旬に先発隊がやってきて全部で100羽くらい渡来する。

Galli ジュンケイ目

Phasianidae キジ科

Bambusicola thoracica thoracica (Temminck) コジュケイ

2月中旬から9月下旬にかけて、2, 7林班、および試験地に隣接した高校林で時々鳴声をきくが、個体数はきわめて少ない。

Phasianus colchicus tohkaidi Momiyama キジ

周年生息し、2月中旬から6月中旬まで鳴声をきく。vii. 19, '74 2林班草地で抱卵している♀を観察、卵は6個であった。iii. 15, '75 センニンソウの若芽を♂が食べていた。iv. 19, '75 高校林でディスプレイを観察する。

Phasianus soemmerringii scintillans Gould ヤマドリ

周年生息するが、個体数は多くない。

2, 徳山試験地における野鳥の生息時期と好んで食べる木の実の結実期との関係

徳山試験地の面積のほぼ65%を占める天然生林の低木層には、ゴンズイをはじめ多くの広葉樹が初秋にかけて結実する。

近年、給餌木と観賞用を目的とした実のなる庭園木や緑化樹が紹介されたりして、人気をよんでいるが、著者はおもに冬鳥を中心に観察によって野鳥と木の実の関係について調べてみた。(図-1)

周年生息するヒヨドリについてみると、9月ころから3月にかけてタラ、クサギ、ゴンズイなどを食べるのが観察される。

またツグミ、シロハラ、ジョウビタキなどの冬鳥が好んで食べるコトネアスター、ピラカンサにはヒヨドリが、ほとんど食べにこないのは興味深い。

野鳥の生息時期と好んで食べる木の実の結実期との関係



図一 線で結んであるのは野鳥が好んで食べる木の实

との関係については興味のある事実が若干見出されたが、このことについては今後十分に観察をつけたい。

さらに、今後の調査として、森林のちがいによる個体数調査や繁殖の確認が必要であると思われる。

引用文献

- 1) 堤 利夫・稲森幸雄・岡本憲和・光枝和夫：京都大学徳山試験地の植生 ——樹木誌を中心として—— 京大演集, 10, 119~126, (1972)
- 2) 三宅貞敏・白石乃爾：山口県の野鳥とその方言 (I), 「山口の自然」, 2 (9), 8~19, (1968)
- 3) 三宅貞敏・白石乃爾：山口県の野鳥とその方言 (II), 「山口の自然」, 2 (20), 11~21, (1968)
- 4) 橋本英一・伊藤正美：野鳥の招き方 (あなたの庭に), 文研出版 (1971)

これらの観察はまだ十分とはいえないが、ツグミ、ヒヨドリなどが好んで食べるとされているヒサカキの実をこれらの野鳥が食べているのをこの3年間に著者は観察することができなかった。

このことは一般に好むといわれていても実際にはあまり好んでいないのか、または好んで食べる木の実が、ほかに豊富に存在する場合は、ヒサカキを食べないのであろう。

このような問題については、今後十分な観察をつけていきたい。

おわりに

62種の鳥類が徳山試験地と、その隣接地域で確認できた。

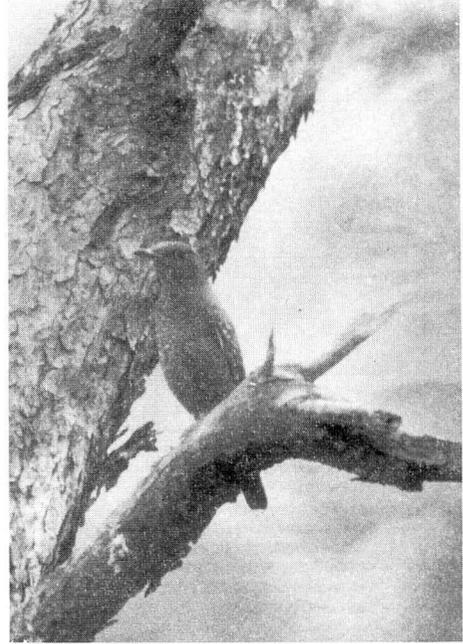
このことは徳山試験地が鳥類の生息、繁殖および渡り鳥の休息地として重要な森林であることを示している。

とくにサンコウチョウ、エゾビタキ、サメビタキ、エゾムシクイ、セッカ、イソヒヨドリ、カヤクグリ、ヤマセミなどが確認されたことは興味深い。

また野鳥の生息時期と好んで食べる木の実の結実期



イヌザンショウの実を食べにきたエゾビタキ
Miscicapa griseisticta



アカマツで休息するイソヒヨドリ
Monticola solitarius



巣箱に営巣したシジュウカラ
Parus major minor



ヒンコチの名で親しまれているジョウビタキの雌
Phoenicurus aureus